












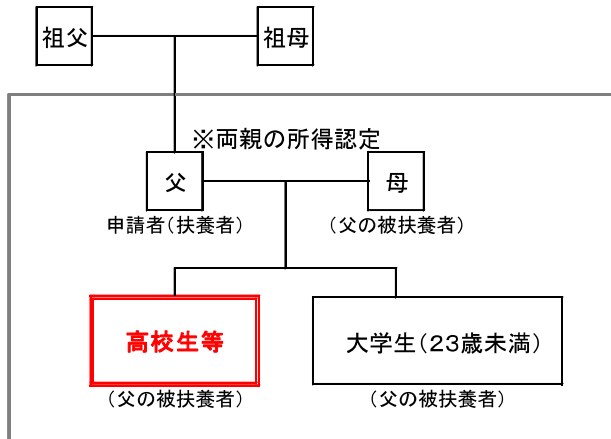
高校生等奨学給付金（世帯構成パターン図）

●子ども一人世帯	
 【全日制等】(第1子) 国公立 122,100円 私立 142,600円	
 【全日制等】(第1子) 国公立 122,100円 私立 142,600円	 扶養されていない
●多子世帯（※扶養されている15歳以上（中学生を除く。）23歳未満の兄弟姉妹がいる世帯）	
◎ 高校生等が2人いる世帯の場合	
 【全日制等】(第1子) 国公立 122,100円 私立 142,600円	給付額の増額  【全日制等】(第2子以降) 国公立 143,700円 私立 152,000円
 【通信制・専攻科】 国公立 50,500円 私立 52,100円	給付額の増額  【全日制等】(第2子以降) 国公立 143,700円 私立 152,000円
(注) 通信制の高等学校等や高等学校等専攻科に通う高校生等を含む複数の高校生がいる場合には、通信制・専攻科以外の高校生等については、給付額を増額し「第2子以降」の単価となる。	
◎ 高校生等以外の子どもがいる場合	
給付額の増額  【全日制等】(第2子以降) 国公立 143,700円 私立 152,000円	
給付額の増額  【全日制等】(第2子以降) 国公立 143,700円 私立 152,000円	給付額の増額  【全日制等】(第2子以降) 国公立 143,700円 私立 152,000円
 扶養されている	

申請者と扶養者(生計維持者)が異なる場合

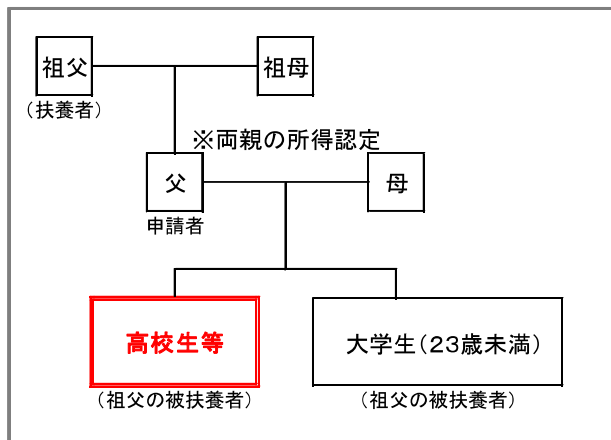
生計を維持している者という概念は、健康保険法等で扶養者と被扶養者の関係を定めるに当たって用いられる概念と同等であり、扶養関係は申請者からの扶養誓約書(様式7)により確認する。
 高校生等とその兄弟姉妹が、申請者には扶養(生計維持)されていない場合、「当該世帯に扶養されている兄弟姉妹」とは言えず、第2子単価を適用することはできない。

【通常】申請者が父母で、父が扶養(生計維持)している場合



高校生等⇒第2子

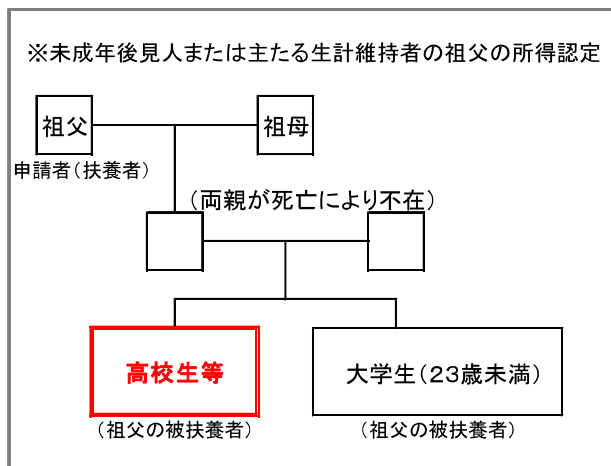
(例1) 申請者が父母であるが、祖父が扶養(生計維持)している場合



高校生等⇒第1子

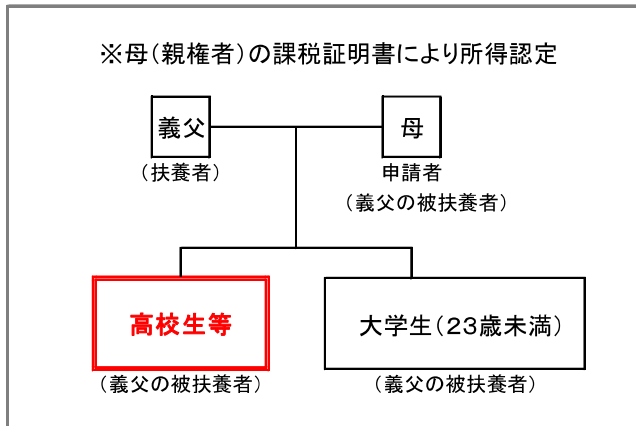
※健康保険における扶養関係では、「大学生」は「父母(申請者)」には扶養(生計維持)されていないとみなし、「高校生等」を「第1子」と判定

(例2) 両親死亡により申請者が祖父で、祖父が扶養(生計維持)している場合



高校生等⇒第2子

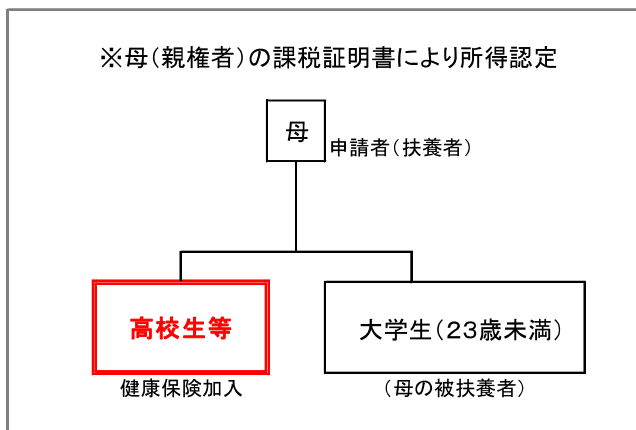
(例3) 申請者は母(=親権者。義父とは養子縁組していない)で、
 義父が扶養(生計維持)している場合



高校生等⇒第1子

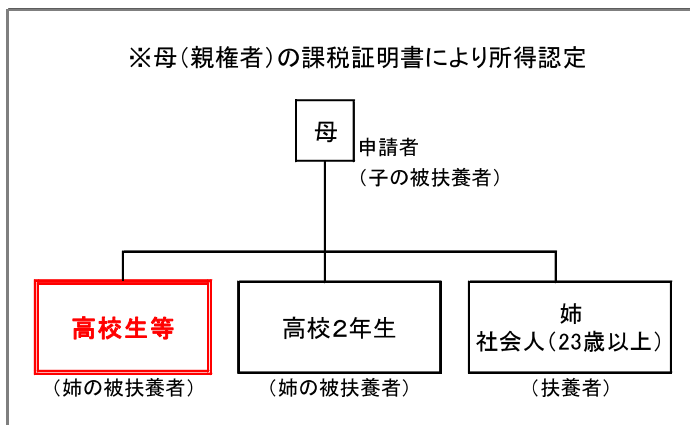
※健康保険における扶養関係では、「大学生」は「母(申請者)」には扶養(生計維持)されていないとみなし、「高校生等」を「第1子」と判定

(例4) 申請者は母(=親権者)で、
 定時制の生徒本人(未成年)は就業し、誰にも扶養(生計維持)されていない場合



高校生等⇒第1子

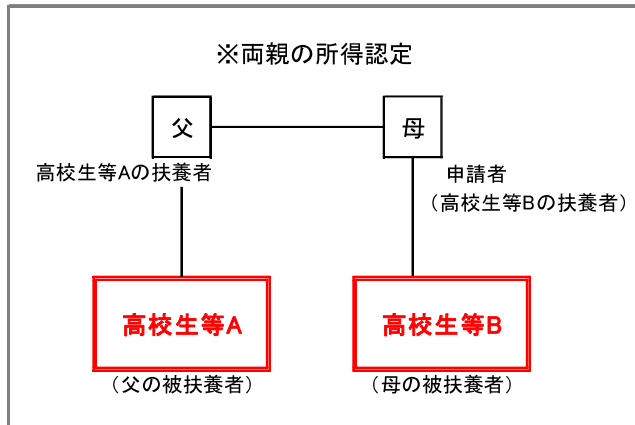
(例5) 申請者は母(=親権者)で、姉が扶養(生計維持)している場合



高校生等⇒第1子

※健康保険における扶養関係では、「高校2年生」は「母(申請者)」には扶養(生計維持)されていないとみなし、「高校生等」を「第1子」と判定

(例6) 高校生等が2人おり、扶養者(生計維持者)が父と母で分かれている場合



高校生等⇒一方を第2子

※親権者2名分の非課税証明書にて、非課税世帯と認定されれば、扶養がそれぞれ兄弟別であっても、兄弟の一方を第2子単価と判定